

Title	リーマン面ノ型ニ就イテ
Author(s)	小林, 善一
Citation	全国紙上数学談話会. 133 p.257-p.267
Issue Date	1937-06-25
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/74514
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

589. リーマン面ノ型ニ就イテ

小林 善一 (東京高師)

§ 1. W -平面上ニ定義サレタ単一連結無限葉ノリーマン面 F ヲ考ヘル。面ノ型問題ハ多クノ方々ニヨツテ研究サレテ居リマスガ $L. Ahlfors$ ノ方法ニ基礎ヲ置クモノハ先ヅ W_0 ヲ面上ノ原点トシテ定メ、面ニ適當ナ *metric*ヲ導入シテ F カラ部分面分 F_p ヲ切り取ル。 F_p ハ W_0 ヲ含ミ、 $p' < p$ ナラバ $F_{p'}$ ハ F_p ヲ含ミ且ツ $p \rightarrow \infty$ ニ對シテ $F_p \rightarrow F$ ナルモノトスル。 F ガ拋物的ナルタメノ十餘條件ハ積分

$$\int \frac{d\rho}{L(\rho)}$$

ノ発散デ書カレル。

茲ニ $L(\rho)$ ハ F_p ノ境界曲線ヲ上ノ *metric*ヲ測ツタ全長デアル。一般ニ F_p ノ含ム領域ノ数ハ一個デハナイ、証明ニ本質的ナノハ W_0 ヲ含ム領域ノ W_0 ヲ F ノ境界点カラ分ツ連結的ナル境界曲線 $\Gamma(\rho)$ ニテツデアルカラ此ノ $\Gamma(\rho)$ ノ長ヲ以ツテ上ノ被積分項 $L(\rho)$ ニ替ヘルコトが出来ル。

對數分岐点ニ對シテハ有效デナイマウデスガ、代數分岐点ニ對シテハ、ズット條件ガヨクナル様デス。以下ニツノ例ヲ以テ上ノ效果ヲ調べ見マス。

§2. 面 F の解析函数 $z = z(w) = \text{ヨツテ}$ 單葉円板 $|z| < R$ に描寫サレル。但シ $R \leq \infty$. $z=0$ の w_0 に対応サレル。

準備トシテ使フ記号定義ヲ述ベマス。

$(g)-disc$: F の單葉円板ヲ同上ニ少クトモ二個ノ特異点アルモノ。

$(g)-Vector$: $(g)-disc$ ノ有限特異点カラ周ニ立テヌ法線、中心迄。

線狀ノ網 T : $(g)-disc$ ノ球面中心ノ軌跡、前ニ位相樹木ト呼ンダモノ。

角距離: 對應スル $(g)-Vectors$ ノ廻轉角ノ絶對値又ハソノ和。

Cylindrical surface Y : $(g)-disc$ ノ中心ノ軌跡ト二個ヨリ多イ特異点ノ $(g)-disc$ ノ $(g)-Vectors$ ノ全体ヲ面 F ヲ分割シテ出來ル面分ヲ

$$y = \log(w-b) + (m-\alpha)i$$

$$\text{又ハ } y = \log(w-b) + (m+\alpha)i$$

デ y - 平面ニ描寫シ、ソレヲノ境界ヲ F ニ從ツテ貼リ合セテ出來ル連結的ナ面。 b ハ有限分岐点。 m ハ原点カラノ最小角距離。 α ハ面分ノ角巾。

サテ w_0 ヲ有限点トシ、之ノノツテ居ル $(g)-Vector$ ヲ角距離ノ原線トスル。 y_0 ヲ w_0 ノ Y 上ノ像トスル。

$$y_0 = \log |w_0 - b_0|.$$

Υ は $\triangle BAC$ の辺 BA , AC 上で切れる。但し

$$A = y_0 + i\theta$$

$$B = y_0 - \theta \quad \text{及び} \quad C = y_0 + \theta.$$

$\triangle ABC$ 内 = アル Υ の部分の中 y_0 を含ムモノヲ $Q(\theta)$, $Q(\theta)$ の中 $y > \theta$ ト y_0 を分ツ境界曲線ヲ $\Gamma(\theta)$ ノノ長サヲ $L(\theta)$ トスル。

定理 I. 積分 $\int \frac{d\theta}{L(\theta)}$ が発散スレバ Γ は拋物的

デアル。

証明. $L(\theta)$ の定義カラ

$$2\pi \leq \int_{\Gamma} \left| \frac{d \log z}{dy} \right| |dy|$$

Schwarz の不等式ヲ用ヒテ

$$4\pi^2 \leq \int_{\Gamma} |dy| \int_{\Gamma} \left| \frac{d \log z}{dy} \right|^2 |dy|$$

$$\int_{\theta_0}^{\theta} \frac{d\theta}{L(\theta)} \leq K_1 \int_{\theta_0}^{\theta} d\theta \int_{\Gamma} \left| \frac{d \log z}{dz} \right|^2 |dy|$$

$$\leq K_2 (\log R - \log R_0)$$

但し K_1, K_2 は常数, R_0 は $\triangle BAC$ 上ノスベテノ $y =$ 對應スル $|x|$ ノ最小値, Γ が双曲的ナラバ右辺ハ有限デアイル。

§3. Cylindrical surface Υ 上, Γ ノーツノ

有限代数分岐点 \mathfrak{p} の近傍 \mathcal{H} (角巾 $2n\pi$)。 $I(y) \geq 0$ は実軸に平行ナル巾 $n\pi$ の帯を描寫サレル。像ハ筒狀ヲナシ右方ノ境界線ヲ傳ハツテ \mathcal{Y} の他ノ部分ニツナガル。ソレ故 θ が十分大キクナルト BA 上ノ此ノ筒ノ切口ハ開テ、 $\Gamma(\theta) =$ ハ属シナイ。

又 $\mathfrak{p} = \infty$ ノトキハ之レ=属スル (g) -Vector ハナイ。然シソノ n 葉近傍=ハ高々 $(n+1)\pi$ ノ筒狀部分=描寫サレル。

$\mathfrak{p} = \infty$ が分岐点デナイトキハ $n=1$ トシテ上ノコトガ云ヘテ居ル。兩者トモ θ が十分大キケレバ此ノ筒ノ $\triangle BAC =$ スル切口ハ $\Gamma(\theta) =$ 無關係デアル。

一般=レッツノ (g) -Vector \overrightarrow{bd} ノ描寫ハ BAC トニツノ交点ヲモツ \mathfrak{p} が代数分岐点デアレバ θ が十分大キケレバニツ共 $\Gamma(\theta) =$ 關係ガナクナル。($d = \infty$ デ d が對数分岐点デアレバ右側ノレッツノ交点ハ $d =$ 附屬サレテ左ダケ考ヘレバヨイ)。

\mathfrak{p} ノスベテノ (g) -Vectors ガ $\Gamma(\theta) =$ 關係ガナクナル θ ガ考ヘラレル。此ノトキ \mathfrak{p} ハ θ デ無数ト呼バテ。

$\mu_1(t)$ ヲ對数分岐点ノ $I(y) = t =$ 横ハル (g) -Vector 描寫ノ數 ($w = \infty$ が對数分岐点ノトキ w 數ヘ入レル) トシ、 $\mu_2(\theta, t)$ ヲ θ デ有效ナル代数分岐点ノ $I(y) = t =$ 横ハル (g) -Vector ノ數トスル。

$$L(\theta) \leq 2\sqrt{2} \int_0^\theta (\mu_1(t) + \mu_2(\theta, t)) dt$$

定理 II. 積分 $\int_{\theta_0}^\infty \frac{dt}{\int_0^\theta (\mu_1(t) + \mu_2(\theta, t)) dt}$

が発散スレバ F は拋物的デアル。

線状ノ網 Γ = 於テ $\mu_1(t)$ ハ原点 t 。カラ角距離 t = アル對數範圍ノ境界点ノ數 (之ノ境スル對數範圍 = 從ツテ數ヘタ) $\mu_2(\theta, t)$ ハ θ デ有效ナル代數範圍ノ t 。カラ t = アル境界点ノ數デアル。從ツテ積分ハ大々 = 對應スル境界弧即チ網ノ線ノ長サ = ナル。

§ 4. 代數分岐点ノ有效區間ト存在區間トノ差が有限ガアレバ、上ノ定理ハ網ガケ = 着目シテ云ヒ換ヘラレル。例ヘバ、有限個ノ w ノ上ニノミ分岐点ガアルトキヲ考ヘル。

$$a_\nu = e^{\frac{2(\nu-1)\pi i}{n}} \quad (\nu = 1, 2, \dots, n)$$

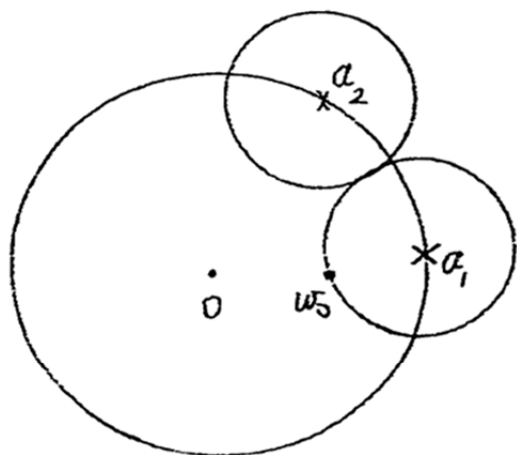
吾々ノ線状網ハ *Elfvig* ノ線状複体ト一致スル。何トナレバ上ノ議論ハ正則点ヲ假リノ特異点トシテ數ヘ入レルコトハ差支ヘナイカラ。

$|w| < 1$ ノ一ツヲ *Original* (g) -disc D_0 トスル。面 F ヲ

$$|w - a_\nu| = \sin \frac{\pi}{n}, \quad \nu = 1, 2, \dots, n$$

ヲ切ルト

1. $|w| > 1$; $|w - a_\nu| > \sin \frac{\pi}{n}$, $\nu = 1, 2, \dots, n$
 の上 = 單葉面分, 系列ヲ得ル。此ノ任意, γ 上ノ描寫ハ



$$R(\gamma) > \log \left(\sin \frac{\pi}{n} \right)$$

$$(k-1)\pi < I(\gamma) < (k+1)\pi$$

= 收マル。此ノ円板 $|w| > 1$, D_0 カラノ角距離ガ $k\pi$ トスル。

何若 a_ν カラ $|w| = 1$ = 立テ
 又垂線ハ何レモ $k\pi$ ノ角距離

= アルカラデアアル。 $\theta \geq (k+1)\pi$ デ此ノ領域ハ無効=ナル。
 ($\gamma_0 = \log \left(\sin \frac{\pi}{n} \right)$ トスル)

$$2. |w| < 1, |w - a_\nu| > \sin \frac{\pi}{n}, \quad \nu = 1, 2, \dots, n$$

= 單葉範圍ヲ得ル。 γ ノ γ 上ノ描寫ハ

$$R(\gamma) > \log \left(\sin \frac{\pi}{n} \right)$$

$$(k - \frac{1}{2})\pi < I(\gamma) < (k + \frac{1}{2})\pi$$

= アル。 $k\pi$ ハコノ $|w| < 1$ ノ D_0 カラノ角距離トスル。
 故 = $\theta \geq (k + \frac{1}{2})\pi$ デ此ノ領域ハ無効=ナル。

$$3. |w - a_\nu| < \sin \frac{\pi}{n} \quad \nu = 1, 2, \dots, n$$

= 單葉、有限葉又ハ無限葉ノ單一連結ノ領域ヲ得ル。前二者
 ノ場合 γ 上ノ描寫ハ

$$R(y) < \log\left(\sin \frac{\pi}{n}\right)$$

$$(k_2-1)\pi \leq I(y) \leq (k_2+1)\pi$$

= 落ちル。 $k_1\pi$ 及び $k_2\pi$ ハ夫々 (g) -discs $|w| \leq 1$ ノ此ノ領域ニ関係アルモノ、 D_0 カラノ角距離ノ最大値ト最小値ヲアル。

以上ヲ綜合シテ T ノ一ツノ代数範圍ノ角点ノ t_0 カラノ最大角距離 (t_0 ハ D_0 ノ像) が $k_1\pi$ ナラバ此ノ範圍ハ $(k_1+1)\pi$ ナラ無効ニナル。

T_m ヲ t_0 カラ $m\pi$ = アル T ノ部分トシテ T_m = 含まレル $\sigma_1(m)$ ヲ對數範圍ヲ限ル項 (ニツノ角点ヲ結ガ長サ π ノ單位線分) ノ數 (之ガ限ル對數範圍ノ數 = 縦ツテ數ヘル。以下同意) トスレバ

$$(m-1)\pi \leq t \leq m\pi \quad \text{ナ}$$

$$\int_0^\theta \mu_1(t) dt \leq \pi \sigma_1(m)$$

T_m = 含まレ T_{m-2} ナ關デナイ代数範圍 (二辺形モ含まレ) ヲ限ル T_m ノ項ノ數ヲ $\sigma_2(m)$ トスルト

$$(m-1)\pi \leq \theta \leq m\pi \quad \text{ナ}$$

$$\int_0^\theta \mu_2(\theta, t) dt \leq \pi \sigma_2(m)$$

ナアルカラ

定理 III. 級數
$$\sum_1^\infty \frac{1}{\sigma_1(m) + \sigma_2(m)}$$

が幾何スレバ F ハ拋物的デアル。

二重週期函数 $p(z) = w$ ノ作ルリーマン面ハ此ノ條件ヲ満足スル。

§5. F が有限個ノ点

$$W = a_1, a_2, \dots, a_\nu$$

デノミ分岐スル場合ニハ、一次変換ト角谷サンノ部分的ナ *Pseudo-regular function* ヲ W -平面ニ用ヒテ a_ν ヲ §4 ノ基本点ニ移ス。 $F \rightarrow F'$ トナルトキ適當ナ *Pseudo-regular* 函数¹⁾ ノ選ビ方ニ對シテ F ト F' ノ型ハ同一ニナル。 F = 對スル線狀複体 (*Elfvig*) ハ F' ノ線狀網ト一致スル故ニ此ノ場合ニモ複体ニ對シテ定理 III が云ハレル。

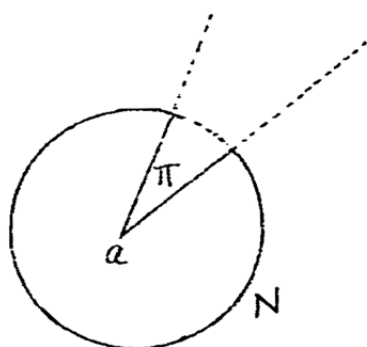
面分ノ個々ニ角谷サンノ方法ヲ適用スレバ、分岐点ノ座標ニツイテハ、モウシ自由が與ヘラレルデアラウ。

註) 角谷氏本紙 49 号 173 *Pseudo-regular function* ノ應用。又 *Z. Kobayashi, On the type of Riemann surface Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daigaku Sec. A. No. 42 (1935)* ノ方法ト結果が同時ニ改良サレタコトニナル。

尚、*Wittich* が之レト同一ト思ヘル定理ヲ出シタコトガ *E. Ulbrich, Flächenkon und Wachstumsordnung bei gebrochenen Funktionen, Jahresbericht d. D. M. V. Bd. 46, (1936)* ニ述べテアル。証明ハ出テ居ナイ。

§6. Ahlfors の場合ヲ考へル²⁾。即ち $|w| < \infty$ = ハ代
数分岐点ノミ起ル F ヲ取ル。 F 上有限 $= W_0$ ヲトリ w_0 。カラ
面上ノ ユークリッド距離ノ最小ガ d 以内ナル点ノ集合ヲ $Q(d)$
トスル。 $Q(d)$ ノ境界ノ中 w_0 ヲ F ノ 開放的ナ部分ト分ツ
ツノ曲線ヲ $\Gamma(d)$ トシ、ソノ ユークリッドノ長サヲ $L(d)$ ト
スル。

Ahlfors ノ定理ハ 積分 $\int \frac{dt}{L(t)}$ が 発散スレバ F ハ
拋物的デアールト擴張サレル。



サテ $W = \infty$ 上ノ 一ツノ 正則又ハ代
数分岐点ヲ考へル。十分大ナル円ノ
外 = 此ノ $W = \infty$ ノ 正則ナル近傍 N
ガトレル。

今一ツノ 分岐点 $a \neq \infty$ ヲ頂点ト
スル 單葉角範圓 π ガ N ト 共通部分ヲ持ツトスル。 N ノ 周
ノ長サヲ ε , a ト N ノ 周トノ 最小距離ヲ δ トスレバ $N \dot{+} \pi$
上 a カラ $\delta + \varepsilon$ 以下 ナイ距離 = アル点ノ 集リハ $N \dot{+} \pi$
内ヲ閉ナル。 故ニ a ノ w_0 カラノ 最小距離ヲ d トスレバ
 $Q(p)$ ノ 境界ハ $p > d + \delta + \varepsilon$ デ $N \dot{+} \pi$ 内ヲ閉ナル。
故ニ π ハ カナル p ガ $\Gamma(p) = \emptyset$ シテ 無効デアアル。

今代數分岐点 a ヲ頂点トスル ∞ 迄延ビルスベテノ 單

註) L. Ahlfors, Zur Bestimmung des Typus einer
Riemannschen Fläche. Comment. Math. Helv.,
3 (1931)

某角範囲ニツイテ考ヘルト、十分大ナル ρ デ皆無効ニナル
コトガアル、此ノトキ α ハ ρ デ無効デアルト云ハフ。

ρ デ有効ナル且ツ w_0 カラ ϵ 以内ニアル代数分岐点ノ
数ヲソノ次数ニ從ツテ數ヘテ $n(t, \rho)$ トスル。

$$L(\rho) \leq 2\pi \int_0^\rho u(t, \rho) dt$$

故ニ Ahlfors ノ定理ノ條件ハ積分

$$\int_0^\infty \frac{d\rho}{\int_0^\rho u(t, \rho) dt}$$

ノ発散ニナル。

サテ、スベテノ代数分岐点ニツイテ w_0 カラノ距離ト無
効ニナル最小値 ρ ノ差ガ有界ナラバ、例ヘバ ϵ ヨリ小
サイトスレバ Ahlfors 氏³⁾ ノ球面上デ得タ定理(角谷サン
ノ一昨²⁾年得タレタ)ガ同論文ニ於テ 4π ノ代リニ ϵ ヲ置キ換
ヘテ得ラレル。

定理 IV. F ノスベテノ代数分岐点ノ $\Gamma(\alpha) = \infty$ ナル有
効區間ガ有界ナラバ

$$\sum_{i=1}^{\infty} \frac{i}{n(i)}$$

ノ発散ガ F ガ拋物的ナルタメノ十分條件デアル。茲ニ $n(i)$
ハ次数ニ從ツテ數ヘタ w_0 カラ i 以内ニアル代数分岐点ノ

註3) L. Ahlfors. Über eine Klasse von Riemannschen Flächen. Soc. Sci. Fermica Comm.

Phy.-Math. IX, (1936)

数デアル。

例へバ境界点ヲ持タナイ F ノ代数分岐点ノ座標ノ集合が有界デアレバ、上ノ條件ヲ満足スル。例へバ $|w| < K' = \text{入}$
ルナラバ

$$h = 2(\pi + 1) h'$$

トナル。